

# 2023 年共通テストの 結果を総まとめ！

「共テ＝勉強コスパ低い」？ 共テ離れをデータで検証！

旺文社 教育情報センター 2023 年 3 月 15 日

3 年目となる共通テストが 1 月 14 日、15 日(追試験、再試験＝1 月 28 日、29 日)に行われ、先月、確定平均点等が入試センターから発表された。

5 教科 6 科目の加重平均点は、センター試験の開始以来、過去最低となった昨年から大幅にアップ。ただし生物は 2 年連続で平均点が過去最低、理科の発展科目で得点調整が実施されるなど、思考力を前面に押し出した共テはまだ難易度の面で不安定だ。こうしたことを背景に「共テ離れ」の傾向も一部見え始めている。

※本記事のデータは大学入試センター「実施結果の概要」(2 月 6 日発表)をもとに作成。

※特に断りのない場合、データは本試験のもの。

※記事中「過去最高」等の表現は、1990 年にスタートしたセンター試験を含める。

## 全体結果

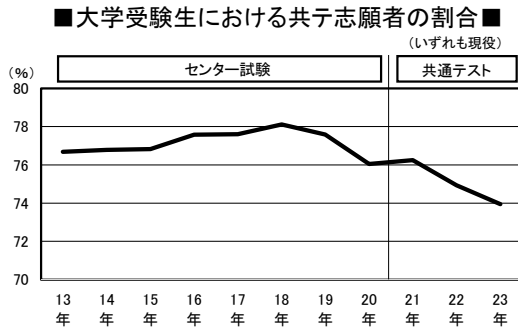
### ● 志願・受験状況

#### ● 2023 年「志願・受験状況」の TOPICS

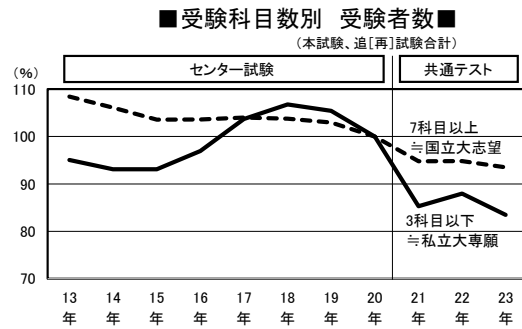
- (1) 志願者数は 51.3 万人で 5 年連続の減。
- (2) ただし現役志願率は高く、45.0%で昨年続く過去 2 番目。それにも関わらず志願者数が減ったのは、高 3 生数そのものの減少が大きい。
- (3) 受験者数(実際に受験した者の数)は 47.4 万人でこちらも減少傾向。
- (4) このうち追・再試験の受験者(1 科目でも受験した者)は 3,471 人で過去最多(コロナ前の数倍、2021 年、2022 年の 2 倍)。主な要因はコロナの罹患や濃厚接触。
- (5) 欠席者数は「コロナ前＝3 万人」⇒「2021 年＝5 万人に急増」⇒「今回＝4 万人」で、落ち着きつつあるが依然として多い。受験生の中で総合型、推薦型志向が強まるものの、「不合格だったときのために共テに出願 ⇒ 総合型、推薦型で合格 ⇒ 共テ欠席、高校もコロナで無理に受けさせない」という構図。
- (6) 「共テ離れ」の傾向が見られる。

ここでは特に(6)について見ていこう。

## ●「共テ離れ」の検証



※現役大学受験生数は文科省「学校基本調査」による。  
23年は旺文社予測値。



※「7科目以上」「3科目以下」の受験者数につき、それぞれ  
共テ開始前年の2020年の人数を100とした場合の割合。  
※受験科目数…理科の基礎科目は2科目で1科目とする。

前述のとおり共テの現役志願率は今年も高く、ここからは「共テ離れ」と言い難い。ただしこれは高3生を母数にした数値だ。現役の大学受験生を母数にすると左のグラフのようになり、共テ志願者の割合が2018年の78.1%から2023年は74%程度（旺文社予測値）までダウンしていることがわかる。つまり受験生の中では「共テ離れ」が進んでいると言える。

それではどの層で進行しているのか。それを示したのが右のグラフだ。受験生そのものが減少しているため、共テで7科目以上を受験した層も減っているが、3科目以下の受験層の減少が大きい。これは主に私立大の専願層だ。

私立大専願層における「共テ離れ」の最大の要因は、共テの思考力問題だろう。しかし両グラフとも2021年の共テ開始以前からダウンが見られる。それは私立大の入学定員超過率の厳格化も「共テ離れ」に関わっているためだ。

超過率の厳格化は2016年からスタートし、2019年までは受験生に併願増の傾向が見られた。センター利用入試はボーダーが比較的高くて受かりづらい入試だが、それでも併願の手段として、この入試の志願者は増加を続けた（2019年は両グラフともダウンしているが、センター利用入試の延べ志願者数は増えている）。

しかし志願者の増加と実質倍率のアップを続けたセンター利用入試もここで限界を迎える。併願を増やしてもなかなか受からない。浪人すれば翌年は入試改革という2020年、受験生の超安全志向のもと、出願校は安全圏に絞り込まれ、センター利用入試も敬遠された。

こうして迎えた2021年。センター試験は共テに変わり、思考力問題が強化された。共テの思考力問題はクセが強く、私立大独自入試の対策とも異なる。ここに時間を費やすなら私立大は独自入試でチャレンジした方が効率的、と考える受験生も出たはずだ。

共テ利用入試はある程度倍率が下がったり、地方から都市部への進学が積極的になってくれば人気も復活してくる。要は労力と成果を秤にかけた「コスパ見合い」ということだ。ただし少なくともセンター試験と比べて共テは「勉強コスパが低い」試験になりつつある。

## ●全体の平均点等

全教科、科目等の平均点は次ページの表のとおり。

## 2023年度 大学入学共通テスト(本試験) 平均点等一覧[確定]

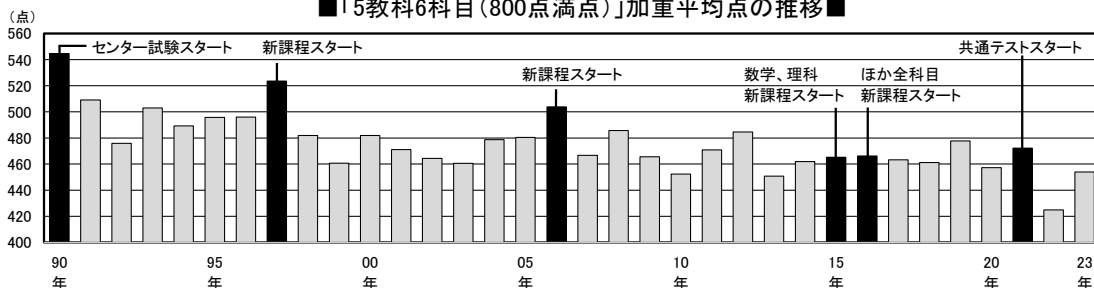
<2023年2月6日 大学入試センター発表>

教科	科目	2023年		2022年		前年差		
		受験者数	平均点	受験者数	平均点	受験者数	平均点	
<b>基幹3教科 平均点合計(600点満点)</b> 【国語+数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B+英語】		— (得点率)	<b>339.03</b> 56.5%	— (得点率)	312.53 52.1%	— (得点率差)	<b>26.50</b> +4.4ポイント	
国語(200点)	国語	445,358	105.74	460,967	110.26	▲ 15,609	▲ 4.52	
地理 歴史・ 公民	地理歴史(100点)	世界史A	1,271	36.32	1,408	48.10	▲ 137	▲ 11.78
		世界史B	78,185	58.43	82,986	65.83	▲ 4,801	▲ 7.40
		日本史A	2,411	45.38	2,173	40.97	238	4.41
		日本史B	137,017	59.75	147,300	52.81	▲ 10,283	6.94
		地理A	2,062	55.19	2,187	51.62	▲ 125	3.57
	公民(100点)	地理B	139,012	60.46	141,375	58.99	▲ 2,363	1.47
		現代社会	64,676	59.46	63,604	60.84	1,072	▲ 1.38
		倫理	19,878	59.02	21,843	63.29	▲ 1,965	▲ 4.27
		政治・経済	44,707	50.96	45,722	56.77	▲ 1,015	▲ 5.81
		倫理、政治・経済	45,578	60.59	43,831	69.73	1,747	▲ 9.14
数学	数学①(100点)	数学Ⅰ	5,153	37.84	5,258	21.89	▲ 105	15.95
		数学Ⅰ・数学A	346,628	55.65	357,357	37.96	▲ 10,729	17.69
	数学②(100点)	数学Ⅱ	4,845	37.65	4,960	34.41	▲ 115	3.24
		数学Ⅱ・数学B	316,728	61.48	321,691	43.06	▲ 4,963	18.42
		簿記・会計	1,408	50.80	1,434	51.83	▲ 26	▲ 1.03
情報関係基礎	410	60.68	362	57.61	48	3.07		
理科	理科①(50点)	物理基礎	17,978	28.19	19,395	30.40	▲ 1,417	▲ 2.21
		化学基礎	95,515	29.42	100,461	27.73	▲ 4,946	1.69
		生物基礎	119,730	24.66	125,498	23.90	▲ 5,768	0.76
		地学基礎	43,070	35.03	43,943	35.47	▲ 873	▲ 0.44
	理科②(100点)	物理	144,914	63.39	148,585	60.72	▲ 3,671	2.67
		化学	182,224	54.01	184,028	47.63	▲ 1,804	6.38
		生物	57,895	48.46	58,676	48.81	▲ 781	▲ 0.35
		地学	1,659	49.85	1,350	52.72	309	▲ 2.87
外国語(200点)	英語	リーディング(100点)	463,985	53.81	480,763	61.80	▲ 16,778	▲ 7.99
		リスニング(100点)	461,993	62.35	479,040	59.45	▲ 17,047	2.90
	合計	—	116.16	—	121.25	—	▲ 5.09	
	ドイツ語	82	123.80	108	124.26	▲ 26	▲ 0.46	
	フランス語	93	131.72	102	113.74	▲ 9	17.98	
	中国語	735	162.76	599	164.79	136	▲ 2.03	
韓国語	185	158.51	123	144.67	62	13.84		

<注>

- ① 英語の合計平均点はリーディングとリスニングの平均点を足したもの。
- ② 表中の「平均点対前年差」は、四捨五入の関係で「2023年-2022年」と一致しない場合がある。  
▲印は「ダウン」(平均点)、および「減」(受験者数)を示す。
- ③ 得点調整は理科②で実施。上表は調整後の得点。

■「5教科6科目(800点満点)」加重平均点の推移■



※5教科6科目…国語+数学2科目+外国語+地歴公1科目+理科1科目。

※加重平均点…各教科内で「各科目の平均点×各科目の受験者数」の合計を、各科目の受験者数合計で割ったもの。

【基幹3教科平均点合計】(国語+数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B+英語=600点満点)

=339.0点(対前年+26.5点) (前ページ表)

【5教科6科目加重平均点】(国語+数学2科目+外国語+地歴公1科目+理科1科目=800点満点)

=453.9点(対前年+29.0点) (前ページグラフ)

基幹3教科の平均点合計も、5教科6科目の加重平均点も昨年から大幅アップ。センター試験を含めた34年間の中で見れば今年の前年よりは低い。それでも極端に落ち込んだ昨年から大きく浮上したことで、国公立大に対しても積極的な出願が見られた。

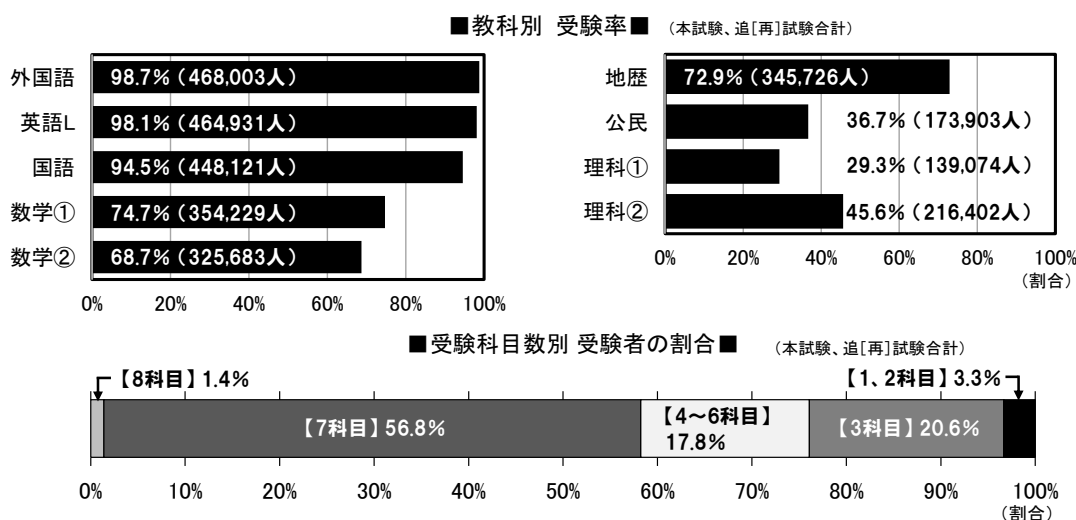
### ●得点調整

理科②では得点調整が行われた。前ページの表は調整後の平均点だが、1月20日に入試センターが発表した「中間集計その2」(各科目で99.9%以上の集計が完了)では「物理=63.39点」「生物=39.74点」で23.65点の差が開いた。

得点調整は異例(異例であるべき)で、共通一次で1回(1989年=理科)、センター試験で2回(1998年=地歴、2015年=理科)※しか行われていない。それが共テになってからすでに2回目となる(2021年=公民、理科②の2教科、2023年=理科②)。共テの難易度はなかなか安定しない。

※このほかセンター試験では、1997年の新課程初年度に数ⅡBと経過措置科目の旧数Ⅱの間で大きな平均点差が開いたが、ちょうどこの年に得点調整制度が廃止されて行われなかった(翌年から復活)。

### ●教科別 受験率/受験科目数別 受験者の割合



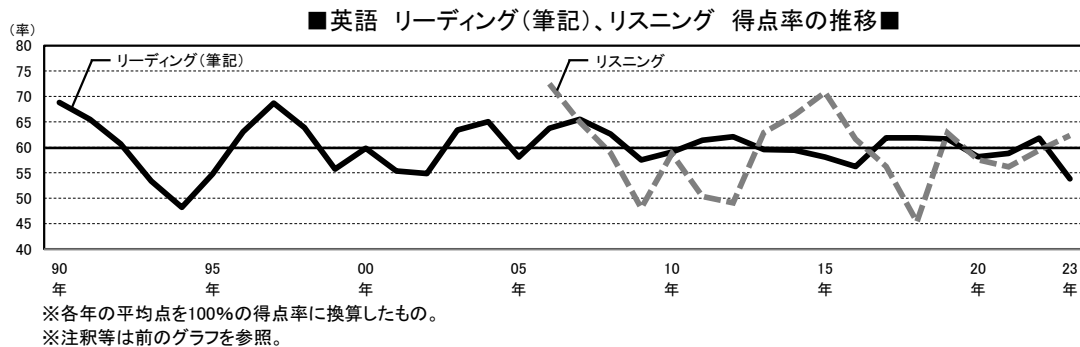
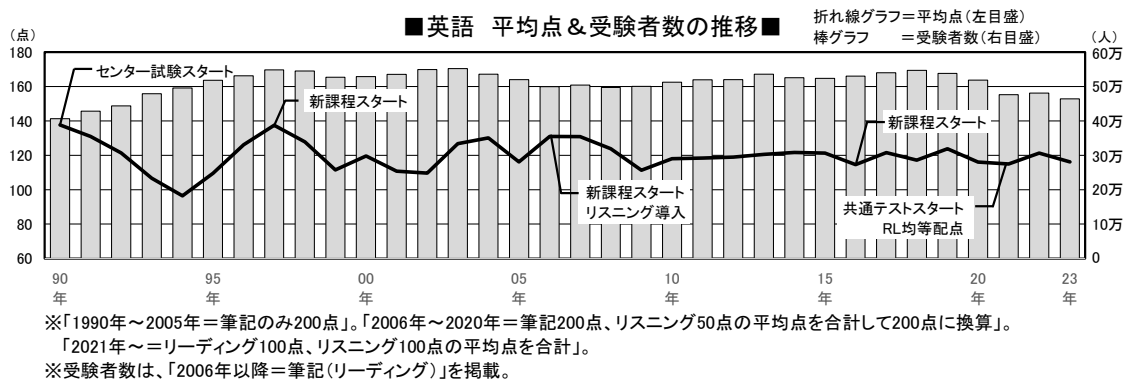
ほぼすべての教科で受験者減。唯一増加したのが公民で、現社と倫政経で増加となった。受験科目数別の受験者の割合では、ここ数年、前述のとおり3科目以下が減少しているのに対して7科目以上が増加傾向。「2018年⇒2023年」で「55.3%⇒58.2%」にアップした。

## 科目別結果

※以下、文章中の点差等は対前年を示す。

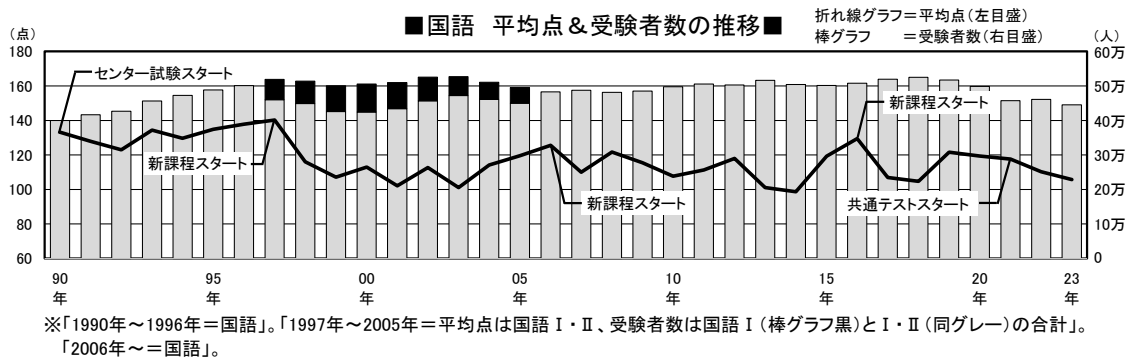
- 英語[平均点;リーディング=53.81 点(-7.99 点)、リスニング=62.35 点(+2.90 点)、合計=116.16 点(-5.09 点)]

リーディングは出題傾向に大きな変化はなかったものの、得点率 53.8%で 1994 年(48.2%)以来の低い水準となった。しかしそれでもリーディング&リスニングの平均点合計はかなり安定しており、毎年 6 割前後で推移している。



- 国語[平均点;105.74 点(-4.52 点)]

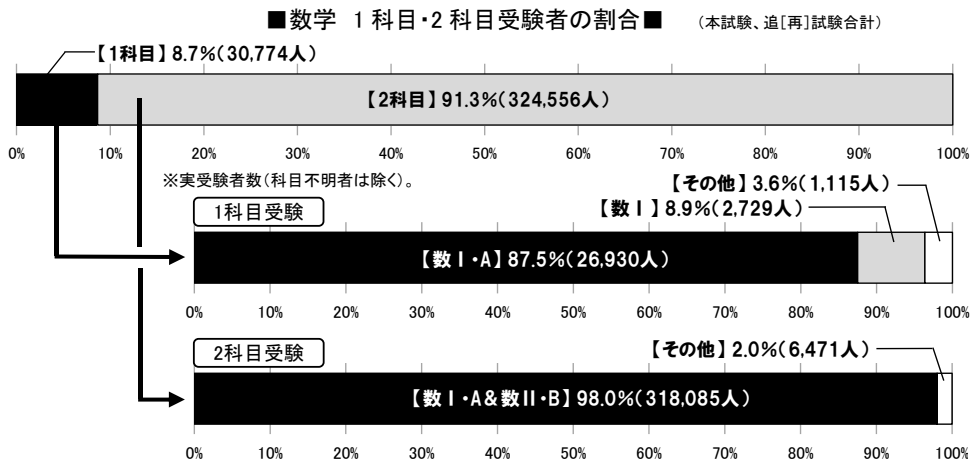
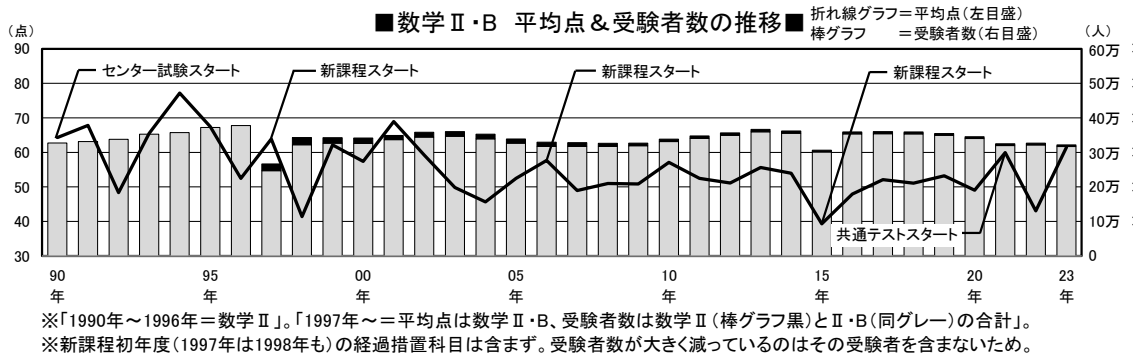
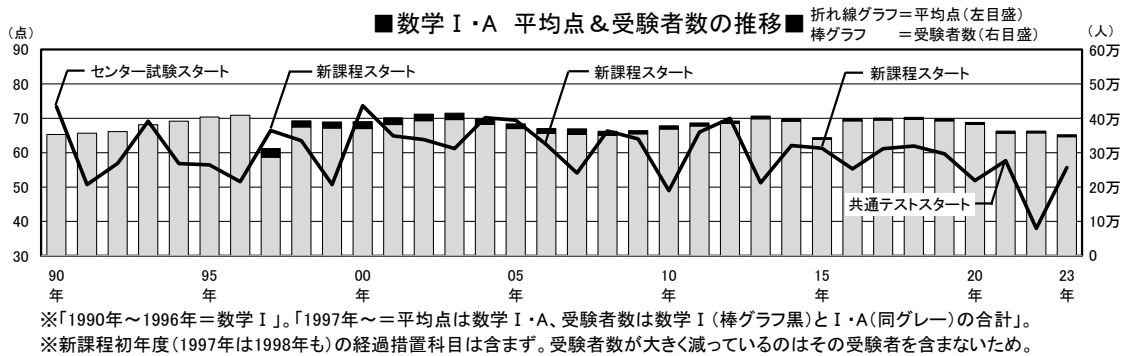
平均点はジワジワと 4 年連続でダウン。センター試験から大きな変化がなかった共テ第 1 回と比べ、去年の第 2 回、今年の第 3 回は思考力を重視する出題傾向が強まっている。複数の文章を読み解いて考察する能力がカギとなろう。



●数学[平均点;数ⅠA=55.65点(+17.69点)、数ⅡB=61.48点(+18.42点)]

数ⅠA、数ⅡBともに平均点が急降下した昨年からV字回復。これが前述の基幹3教科や5教科6科目の平均点の大幅アップにつながった。得点率(=平均点)は、数ⅠAがダントツで過去最低だった昨年の3割台から5割台半ばへ、数ⅡBは4割台から2001年以来の6割台へ急上昇した。

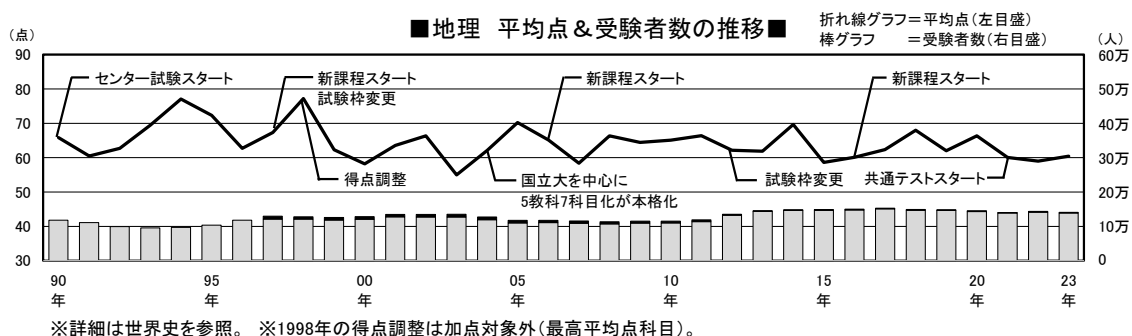
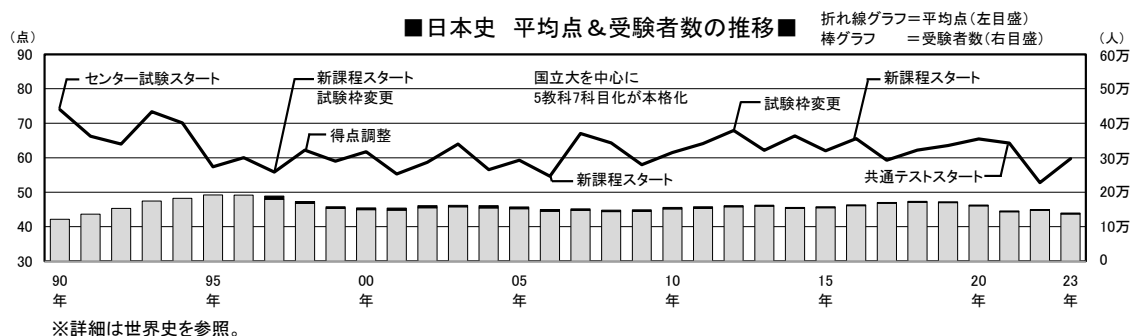
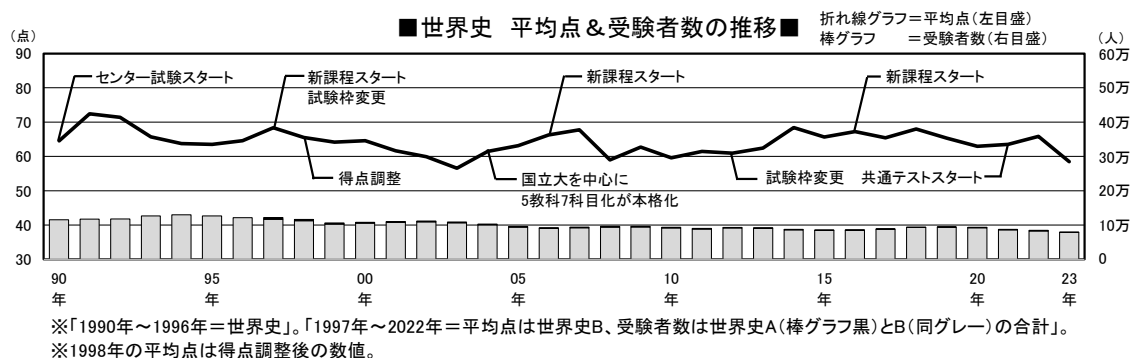
いずれも昨年と比べて問題文の量は増加したが、それでも計算量が減ったり、誘導が丁寧だったり、易しめの問題が増えたりして解きやすかったと言える。

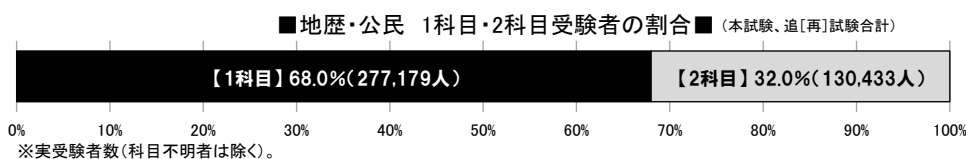
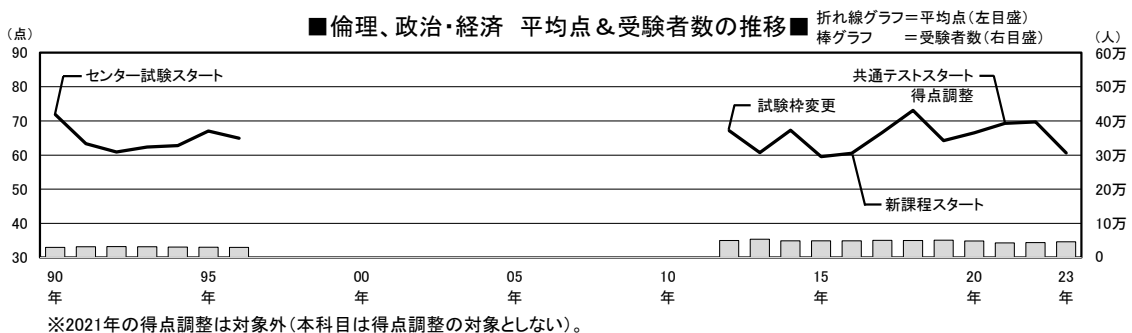
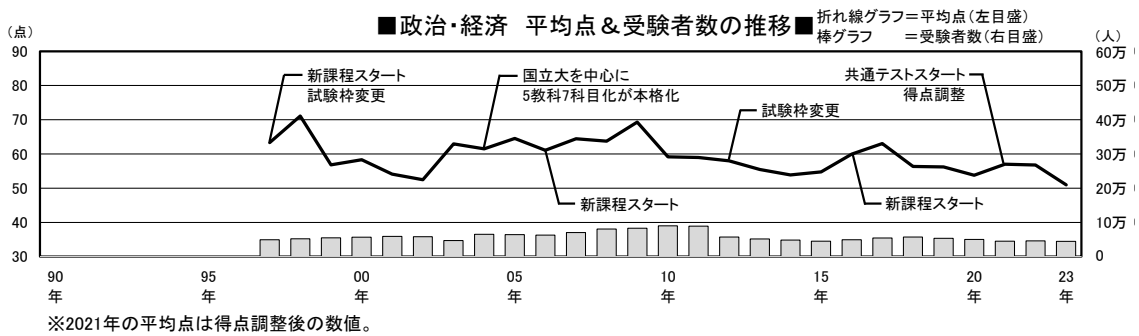
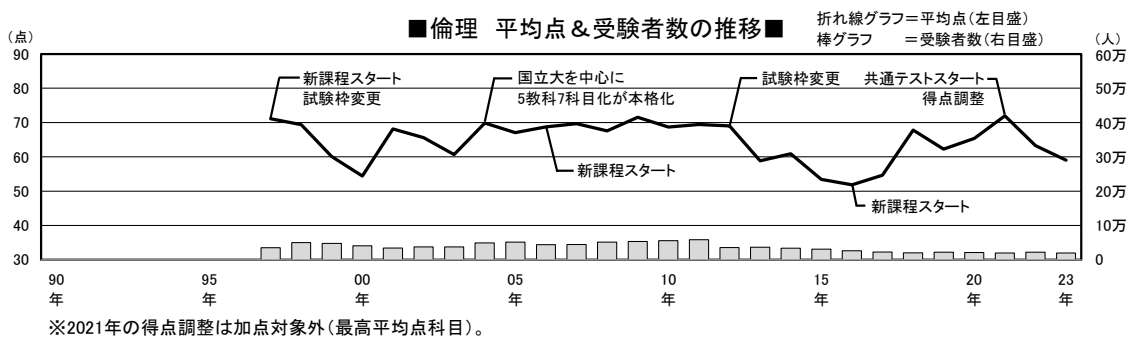
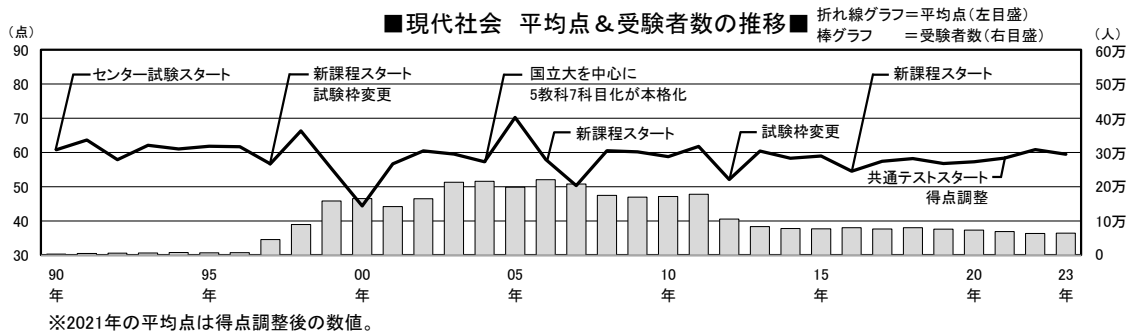


●地歴・公民[平均点;世界史 B=58.43 点(-7.40 点)、日本史 B=59.75 点(+6.94 点)、地理 B=60.46 点(+1.47 点)、現社=59.46 点(-1.38 点)、倫理=59.02 点(-4.27 点)、政経=50.96 点(-5.81 点)、倫政経=60.59 点(-9.14 点)]

今年はどうとう地理 B が地歴・公民の中で受験者数最多に躍り出た(地理 B=13.9 万人、日本史 B=13.7 万人、世界史 B=7.8 万人)。1990 年開始のセンター試験初期のころはほぼ毎年「日本史>世界史>地理」だったが、1997 年の新課程を機に地理 B が世界史 B を上回り、今年、日本史 B までも抜き去った。

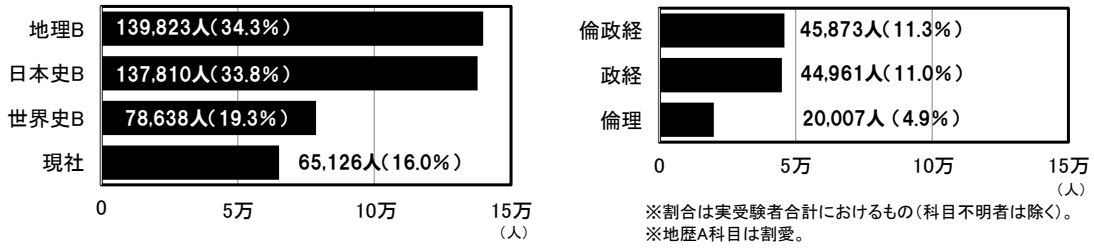
地理 B は地公 1 科目受験での受験者が圧倒的に多く、理系受験生が多く受けていると想定される。今後は国の理系拡大策で理系受験生は増えていくだろうし、さらに新課程入試になれば歴史総合(近現代の日本史と世界史の融合分野)の負担感から、より地理に流れてくる可能性もある。「地理の時代」がやってくるのかもしれない。一方でピーク時の 13 万人から 8 万人を割ってしまった世界史離れも気になるところだ。



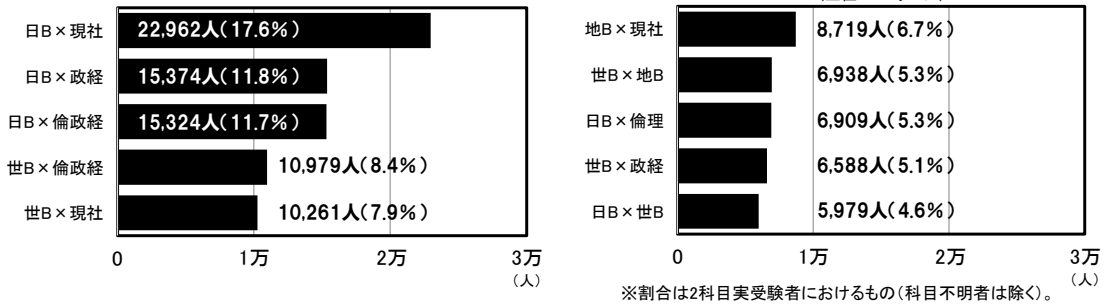




■地歴・公民 科目別受験者数■ (本試験、追[再]試験合計)



■地歴・公民 2科目受験者 科目組み合わせ■ (本試験、追[再]試験合計) (上位10パターン)

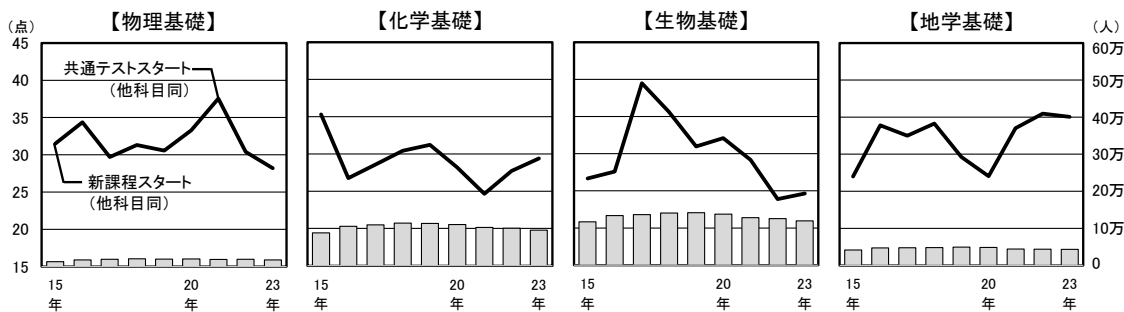


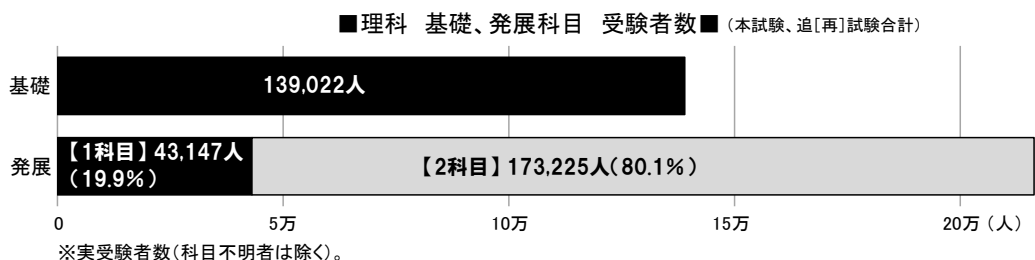
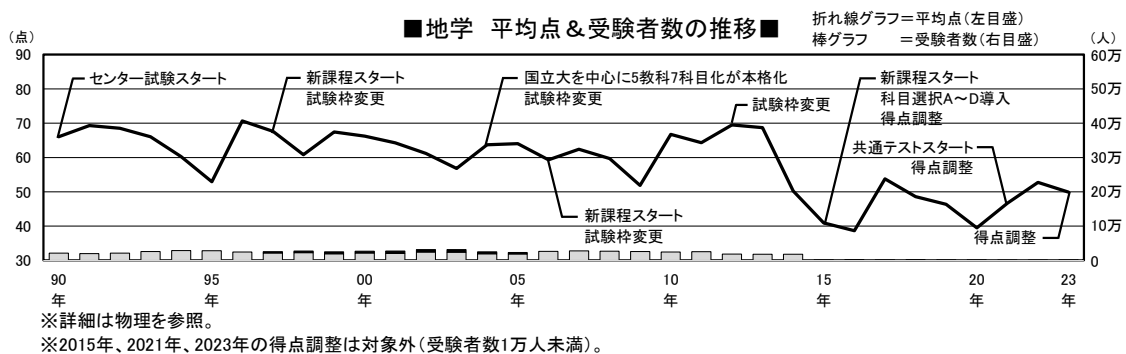
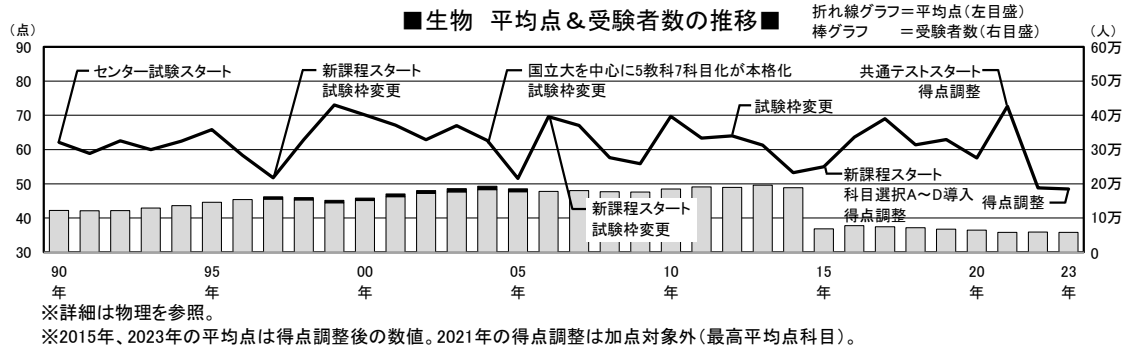
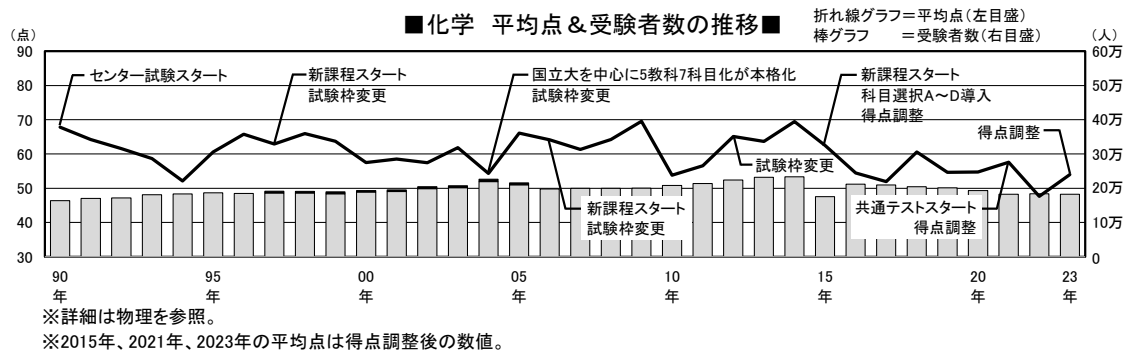
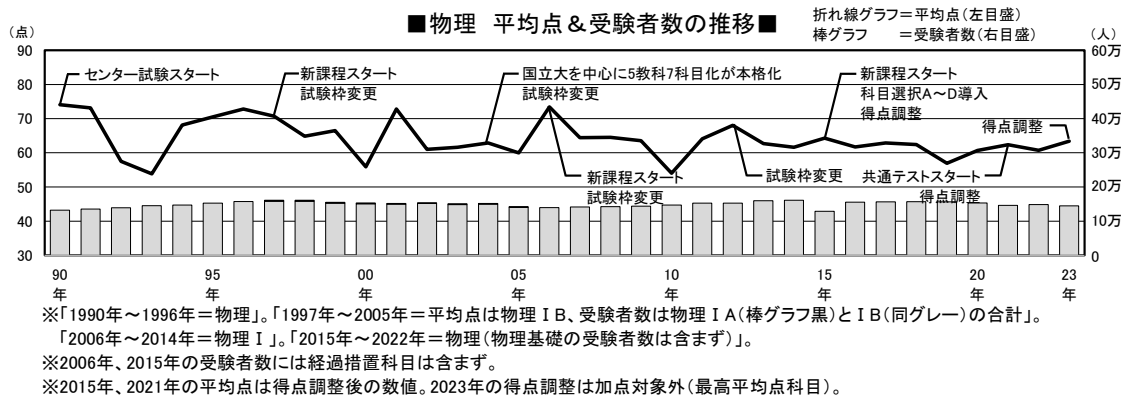
●理科[平均点;物基=28.19点(-2.21点)、化基=29.42点(+1.69点)、生基=24.66点(+0.76点)、地基=35.03点(-0.44点)、物理=63.39点(+2.67点)、化学=54.01点(+6.38点)、生物=48.46点(-0.35点)、地学=49.85点(-2.87点)]

共テになってから特に理科は平均点が安定しない。一昨年に得点調整が行われたばかりだが、今年再び行われることとなった。また、生物は2年連続で過去最低の平均点を更新。調整前の平均点(集計率99.97%段階)は39.74点で3割台という低さだった(ちなみに生物は問題ミスがあり、4点の問題で正解が1つ増えている)。

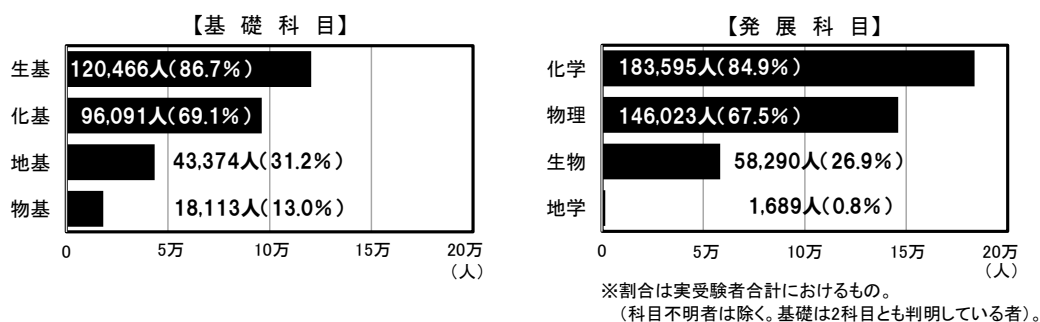
得点調整は平均点がもっとも高かった科目はママで、それ以外の科目に加点。受験者数が1万人未満の科目は対象外となる。そのため物理はママ、化学で最大7点、生物で最大12点の加点、地学は対象外となった。

■理科 基礎科目 平均点&受験者数の推移■ 折れ線グラフ=平均点(左目盛) 棒グラフ =受験者数(右目盛)

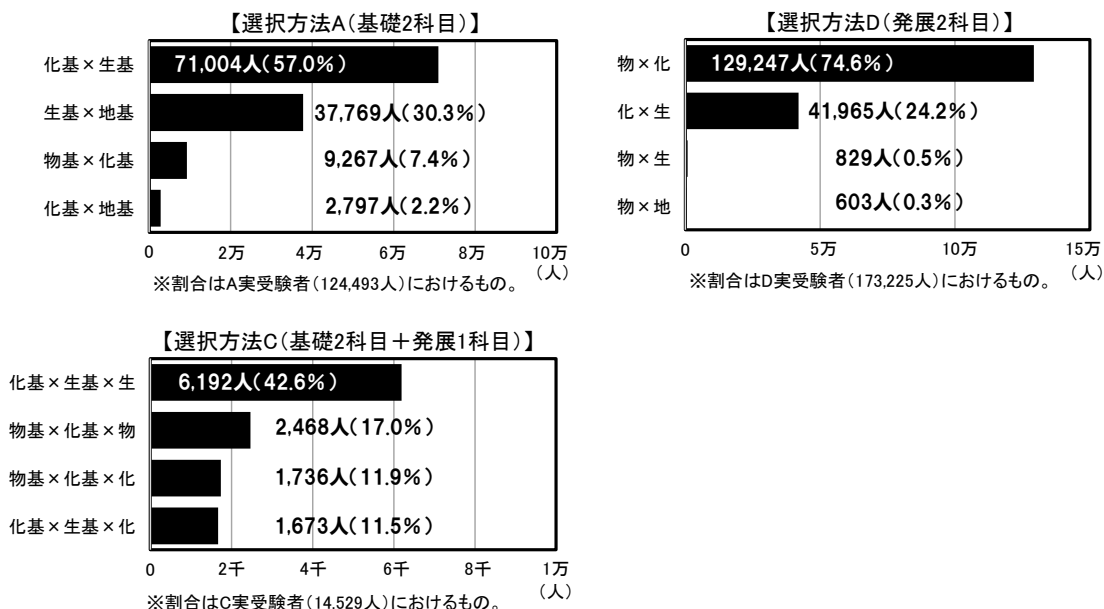




■理科 科目別受験者数■ (本試験、追[再]試験合計)



■理科 選択方法 A、C、D 受験者 科目組み合わせ■ (本試験、追[再]試験合計)  
(上位4パターン)



●スタナイン

スタナインは2021年から始まった新しい共テの成績で、得点の分布により成績を9段階で表示する。現在の一般選抜はほとんどの大学が合計点で合否を決めているので、どんなに不得意な科目があっても合計点さえよければ合格できる。

一方で大学が「全教科まじめに勉強してきた受験生もほしい」となった場合に有効なのがスタナインだ。たとえば出願資格を「5教科すべてでスタナイン『6』以上」とすればよい。

しかしスタナインを入試に利用している大学はほとんどない。スタナイン開始3年目の今年、静岡理工科大が利用したのが初だ(情報学部コンピュータシステム学科データサイエンス専攻の一般選抜)。2025年の新課程入試では鳥取大が利用を検討している(工学部化学バイオ系、社会システム土木系学科の総合型Ⅱ)。

■主要科目スタナイン■（本試験、追[再]試験共通）

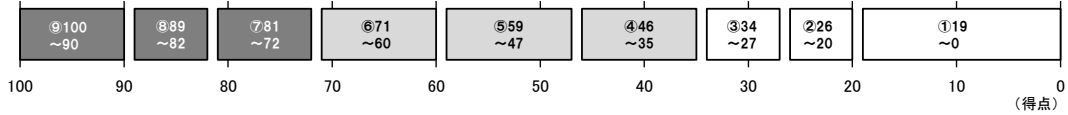
※グラフ横軸は得点、マル数字はスタナインの成績、数字の範囲は得点を表す。

※各段階は受験者の集団を得点順におおよそ以下の割合で分割。

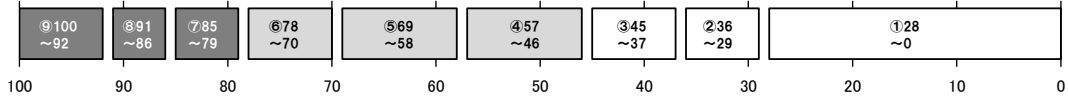
「①=4%」「②=7%」「③=12%」「④=17%」「⑤=20%」「⑥=17%」「⑦=12%」「⑧=7%」「⑨=4%」。

※大学入試センター「段階表示換算表」(1月20日発表)より作成。

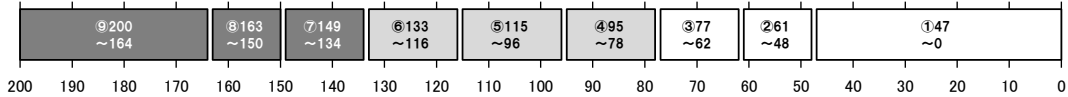
【英語R】



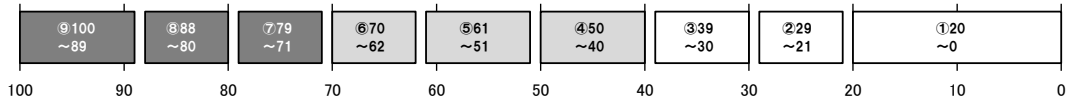
【英語L】



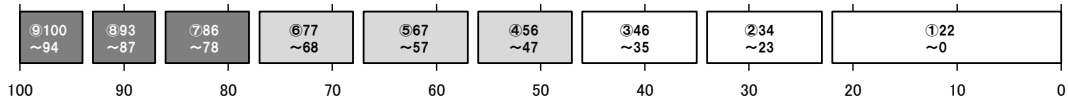
【国語】



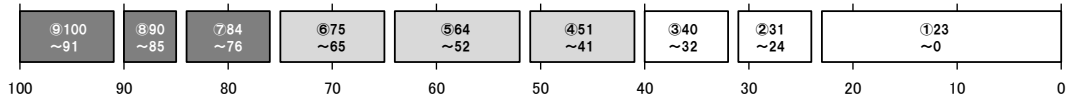
【数学Ⅰ・A】



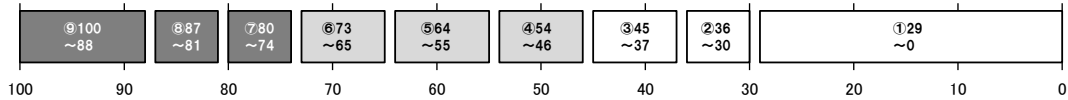
【数学Ⅱ・B】



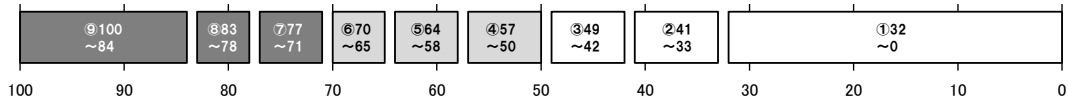
【世界史B】



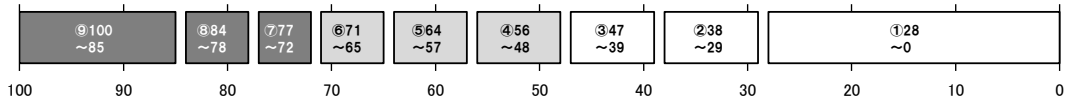
【日本史B】



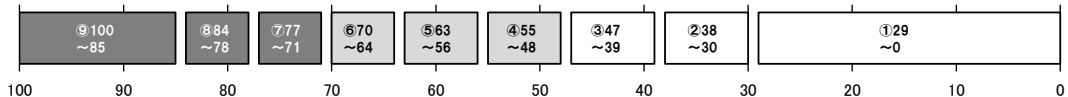
【地理B】



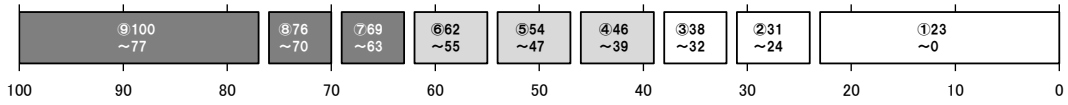
【現代社会】



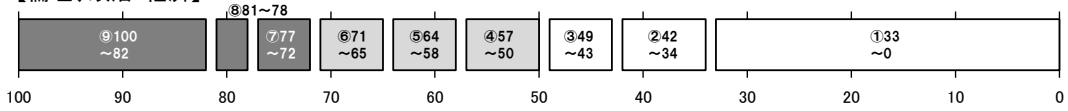
【倫理】



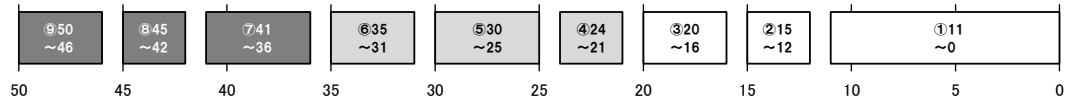
【政治・経済】



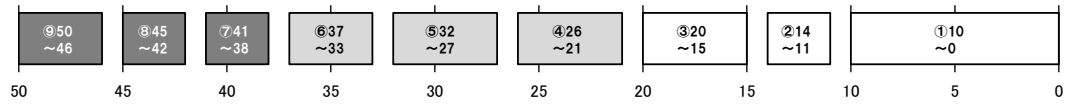
【倫理、政治・経済】



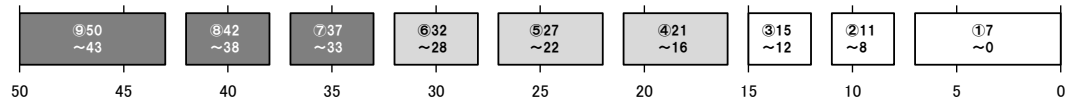
【物理基礎】



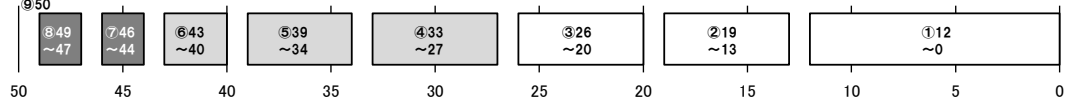
【化学基礎】



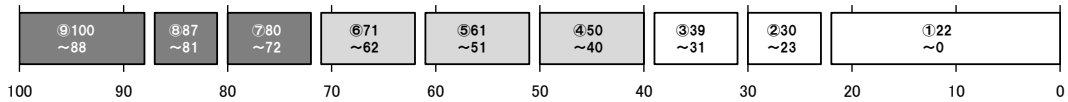
【生物基礎】



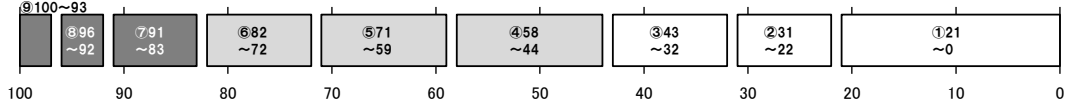
【地学基礎】



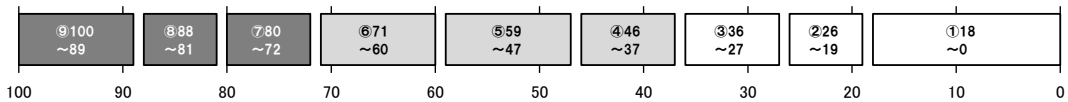
【理科①合計】



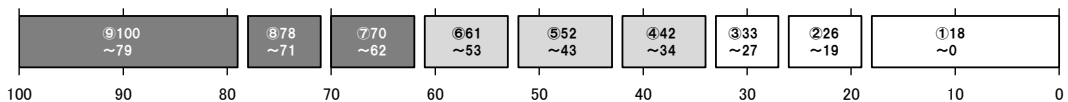
【物理】



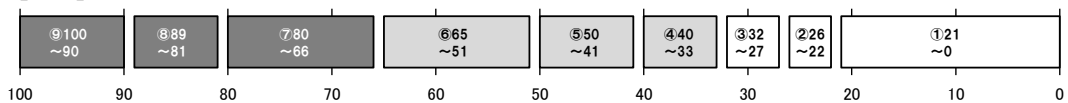
【化学】



【生物】



【地学】



(2023.03 石井)